

身を守る災害情報の活用は

鶴南高 防災講演会で安全意識高める

鶴南高(柴田曜子校長、生徒599人)で14日、「情報・科学リテラシー」防災講演会が開かれ、同校1年生たちが災害情報の活

用についての講演を聴き、安全に対する意識を深めた。講演会は「情報」の授業の一環として毎年開催している。サイエンスリテラシ

ーの必要性と学問的研究の汎用性を生徒に認識させるとともに、東日本大震災後を積極的に生きる日本人として安全に対する意識を持たせ、地元である庄内地方の震災に関する知識を深めようという狙い。

今回は東北大学災害科学国際研究所講師の久利美和さんが「災害情報の活用」をテーマに講演。1年生201人が講話を聴いた。

久利さんは、「科学者は自然現象の中の法則を見つけてため試行錯誤をしている」と過去の地震や噴火など自然災害での科学者の活躍を紹介。「科学はある前提条件の下での予測される結果を導くことが可能だが、判断できない情報がある。科学的情報は答えではなく、

考える参考になるもの」と語った。

講演後、生徒を代表して村山耀子さん(16)が「科学者の言うことをそのまま受け取ればいいと思っていたが、情報を基に自分たちが考えないといけないということに気付いて良かった」とお礼の言葉を述べた。



生徒たちが災害情報の活用について考えた防災講演会